

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院分院腎センターでは、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この案内をお読みになり、ご自身がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「ご自分の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

調査対象となる期間：2010年1月1日～2016年12月31日の間に、膜性腎症のために虎の門病院分院腎センターに入院・通院し、腎生検を受けられた方

【研究課題名】

膜性腎症における抗ホスホリパーゼ A2 受容体抗体と予後に関する検討

【研究の目的・背景】

《目的》

膜性腎症はネフローゼ症候群の代表的疾患であり、原因が不明な特発性膜性腎症と、他疾患や薬剤に起因する二次性膜性腎症に分けられます。近年、特発性膜性腎症の責任抗原のひとつとしてホスホリパーゼ A2 レセプター (PLA2R) の存在が明らかになりました。血中の抗 PLA2R 抗体価は尿蛋白量と正相関することから、治療反応性診断マーカーや予後推定マーカーとしても有用性が期待されています。

本研究では特発性膜性腎症において抗PLA2R抗体の有無が予後に与える影響を明らかにすることを目的としています。

《研究に至る背景》

特発性膜性腎症の責任抗原のひとつである PLA2R は 2009 年に初めて報告されており、比較的新しい概念です。そのため抗 PLA2R 抗体についても報告は少なく、その意義についてはいまだ議論が分かれています。本研究では抗 PLA2R 抗体の有無が予後に与える影響を明らかにすることにより、抗 PLA2R 抗体の臨床への応用について検討することができると考えています。

【研究のために診療情報を解析研究する期間】

2020年6月22日 ～ 2023年12月31日

【単独／共同研究の別】

虎の門病院分院単独研究

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては、特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は虎の門病院分院腎センター澤直樹のもと研究終了後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報】

診療情報：検査データ、診療記録、病理結果、薬歴

【虎の門病院分院における研究責任者】

腎センター 澤 直樹

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2020年12月31日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院分院 腎センター・ 早見典子

電話 044-877-5111(代表)